

4 六甲山

ランク: B

生態系区分

山地

区分レベル

大

含まれる生態系(生態系区分)

東お多福山(草原)

甲山湿原(湿地)

いもり池周辺(湿地)

市町名

神戸市・西宮市・芦屋市・宝塚市

場所

-

選定理由

希少性	多様性	特殊性	脆弱性	分布限定性	人との関わり	複合性
○	○	○	○		○	○

保全制度

国立公園

甲山湿原：西宮市天然記念物・西宮市生物保護地区

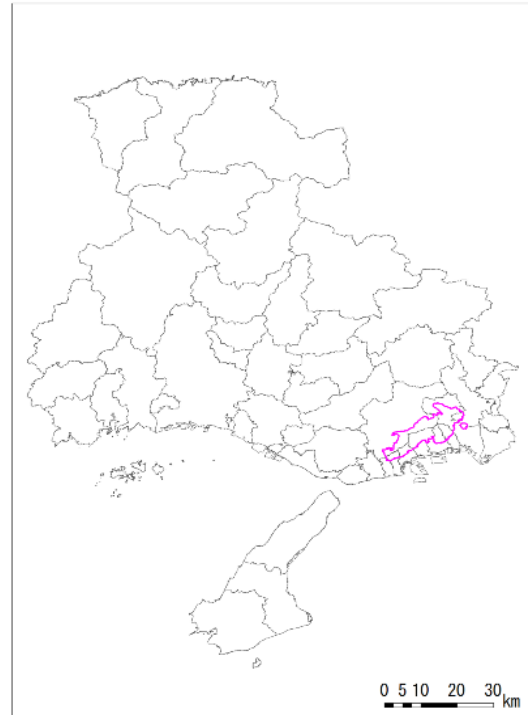
いもり池周辺：西宮市自然保護地区

概要

六甲山（標高931m）は神戸市市街地に隣接する山地で、都市近郊の自然（都市山）として重要である。江戸～明治時代には過度の採取により、地肌をむき出しにしたはげ山となっていたが、燃料革命とともに樹木の採取が減り、また災害防止のために植林に努めたため、現在の森へとよみがえった。

樹林環境を主体とした大生態系に位置づけられるが、東お多福山付近には広大なススキ群落が見られ、麓には甲山湿原を始めとする湿地が成立し、多様な環境を有している。山頂付近は冷温帯に属していることから、ブナ-イヌブナ群落が残存している。

鳥類では、ヨタカ、カヤクグリ、ツツドリなどが生息する。昆虫類ではマヤサンオサムシ、マヤサンコブヤハズカミキリのタイプロカリティとして重要である。また、エゾゼミが生息することで特徴的である。



甲山湿原

写真提供：西宮市

【東お多福山】

かつてカヤ場であった半自然草原。近年、遷移の進行とともに草原の景観、草原の生物相が失われつつあったが、市民の手によって草原が回復しつつある。オケラ、キキョウ、ワレモコウなどの草地性の植物がみられるようになってきている。

【甲山湿原】

湿生植物や湿地性の昆虫類の希少種が多数生育・生息する。

1975年に西宮市の生物保護区に指定され、市が周辺の樹木の伐採や草刈りなどの管理を行っている。

【いもり池周辺】

湿生植物やカスミサンショウウオ、ハッチョウトンボなど、湿地に特有な希少種が多産する地区。